

アフガニスタン・イスラム共和国

Islamic Republic of Afghanistan

[お断り]

アフガニスタンでは、2021年8月15日に新たにタリバン政権が発足しました。本調査に関して駐日アフガニスタン大使館に連絡をとりましたところ、同大使館からは、同大使館は旧政権に属しているため、新しいタリバン政権とは連絡がとれず、新政権下の状況は分からないとの回答でありました。本調査は、アフガニスタン政府の関係HP、各種関係資料等を活用して進めてきましたが、前述のような事情、さらには在アフガニスタン日本国大使館も閉館になっているようなことから、アフガニスタン政府の教育や科学技術の政策等に関する記載内容が新タリバン政権下でも継続されているかについての保証が必ずしも得られているものではないことをお断り申し上げます。

I 当該国・地域の基本指標

1. 日本との関係

(1) 歴史的背景

(i) 1996年には、タリバン政権が成立した。指導者は、偶像崇拝の禁止、バーミヤンの大仏を含むすべての彫像や仏教遺跡を破壊せよとの布告を出した。この事態にユネスコ親善大使であった平山郁夫画伯は、大英博物館長たちと共同声明を発表し、大仏破壊の即時停止を求める署名運動とアフガニスタン文化財救済のための募金活動を始めることになった。バーミヤンの大仏破壊後の2001年から2002年にかけて、画伯が中心となって資金を集め、「文化財難民」として、緊急保護したアフガニスタン流出文化財は102点を数える。故平山画伯には、アフガニスタンの文化勲章ともいわれる「サイド・ジャマルディーン勲章」が贈られた。

(ii) ピース・ジャパン・メディカルサービス(PMS)の現地活動は、中村哲医師が1984年にペシャワール・ミッション病院に赴任してハンセン病の診療に従事したことから始まる。中村医師が現地の人びとと造ってきた用水路で復活した農地は、1万6500ヘクタール、65万人の生活を保障している。

(出典：前田耕作、山内和也編著「アフガニスタンを

(2) 国交状況

- (i) 1930年11月19日、修好条約署名(1931年7月26日発効)。
- (ii) 1934年11月、在カブール日本国公使館開設(1955年12月、大使館に昇格)。1979年12月以降臨時代理大使レベルであったが、1989年2月より一時閉鎖。2002年2月19日再開(駒野臨時代理大使、4月26日大使に昇格)。
- (iii) 1933年10月、在京アフガニスタン公使館開設(1956年5月、大使館に昇格)。1997年より事実上閉館状態にあったが、2002年12月16日再開。
- (iv) 在アフガニスタン日本国大使館は、現地の治安状況の急速な悪化を受けて、2021年8月15日に同大使館を一時閉館し、在イスタンブール日本国総領事館内の臨時事務所において業務を実施してきたが、同年9月1日をもって、同臨時事務所をカタール・ドーハに移転し、今後は同地において当座の業務を継続することとなった。

(出典：外務省 HP 及び在アフガニスタン日本国大使館 HP を基に JISTEC 作成)

(3) 要人の往来

(i) 往訪

年月	要人名
1971年6月	皇太子同妃両殿下(当時)
2001年12月	植竹外務副大臣(暫定政権発足式)
2002年1月、6月	緒方アフガニスタン支援総理特別代表
2002年4月、8月	松浪外務大臣政務官
2002年5月	川口外務大臣
2002年5月	岸田文部科学副大臣
2002年8月	渡部衆議院副議長
2002年9月	杉浦外務副大臣
2002年12月	新藤外務大臣政務官(カブール善隣友好会議)
2003年7月	緒方アフガニスタン支援総理特別代表
2003年11月	田中外務大臣政務官
2004年7月	逢沢外務副大臣
2004年12月	逢沢外務副大臣、緒方 JICA 理事長兼アフガニスタン支援総理特別代表(大統領就任式)
2005年4月	町村外務大臣

2006年11月	関口外務大臣政務官（総理特使）
2007年7月	松浪政府特派大使（ザーヒル・シャー元国王葬儀）
2007年12月	緒方 JICA 理事長
2008年5月	高村外務大臣
2008年11月	緒方 JICA 理事長（総理特使）
2009年3月	山崎衆議院議員（総理特使）
2009年10月	岡田外務大臣
2009年11月	福山外務副大臣（大統領就任式）
2010年3月	緒方 JICA 理事長
2010年7月	岡田外務大臣（カブール国際会議）
2012年1月	玄葉外務大臣
2012年5月	山根外務副大臣
2012年6月	山根外務副大臣（イスタンブール・プロセス閣僚級会合）
2014年1月	牧野外務大臣政務官
2017年1月	藺浦外務副大臣
2018年4月	佐藤外務副大臣

（ii）来訪

年月	要人名
1969年4月	ザーヒル・シャー国王王妃両陛下
1970年5月	アーマッド・シャー皇太子同妃両殿下
1972年11月	ビルキス王女同夫君両殿下
2002年1月	カルザイ議長、モハクケク副議長、アルサラ副議長、アブドッラー外相、シディーク公衆衛生相、ファルハング復興相（アフガニスタン復興支援国際会議）
2002年4月	アミン教育相
2002年7月	ラヒーン情報文化相
2002年10月	アブドッラー外相
2003年2月	カルザイ大統領、アブドッラー外相（「平和の定着」東京会議）
2003年3月	アブドッラー外相
2004年2月	ワルダック殉教者障害者相
2004年3月	カヌニ教育相
2004年3月	ガーニ財務相
2004年8月	ファエズ高等教育相
2005年5月	アブドッラー外相

2005年10月	ラヒーーン情報文化相
2006年1月	アハディ財務相
2006年6月	スパンタ外相（「中央アジア＋日本」対話外相会合）
2006年7月	カルザイ大統領、ジア農村開発復興相（「平和の定着」東京会議）
2006年11月	ムジャディディ上院議長
2007年2月	スタネクザイ大統領顧問
2007年5月	アトマル教育相
2007年6月	ハリリ副大統領、ジア農村開発復興相、スタネクザイ大統領顧問（アフガニスタンの安定に向けたDIAG会議）
2007年11月	アハディ財務相
2008年2月	スパンタ外相他閣僚計13名（共同調整モニタリングボード（JCMB）会合）
2008年11月	アルサラ筆頭相
2009年3月	スタネクザイ大統領顧問
2009年3月	ポパル独立地方行政局長官
2010年3月	ラヒーミー農業灌漑牧畜相
2010年3月	ワルダック教育相
2010年6月	カルザイ大統領、ラスール外相、ザヒルワル財務相、
	スパンタ大統領顧問、スタネクザイ大統領顧問
2010年12月	ハキミ外務副大臣（日アフガニスタン政策協議）
2011年2月	ダウドザイ大統領府官房長官
2011年12月	ガーニ大統領顧問
2012年2月	ルーディン外務副大臣
2012年7月	カルザイ大統領、ラスール外相、ザヒルワル財務相、スタネクザイ大統領顧問（アフガニスタンに関する東京会合）
2012年10月	ザヒルワル財務相
2012年11月	ナジャフィ運輸民間航空相
2013年10月	サンギーン通信相
2014年2月	ザヒルワル財務相
2014年5月	ザヒルワル財務相（国際コンタクト・グループ（ICG）会合）
2015年3月	ドゥラニ農村復興開発相
2015年7月	ムラド国軍副参謀長
2015年8月	ルラ・ガーニ大統領夫人（WAW!2015）
2015年12月	ジア・マスード行革担当大統領特別代表

2018年2月	アンディシヤ外務副大臣
2019年10月	ガーニ大統領（即位の礼）
2020年1月	カユミ財務相（IMF・JICA国際会議）
2021年3月	マナウイ法務相（京都 kongress）

（出典：外務省 HP）

2. 社会・経済の安定性

- （1）2015年以降、国際治安支援部隊（ISAF）の後継である NATO の「確固たる支援任務」（RSM）がアフガニスタン治安部隊への訓練・助言・支援を実施。2021年4月、米国及び NATO は9月11日までの駐留部隊撤収を決定。
- （2）アフガニスタンで2021年8月15日に、ガニ政権が崩壊し、イスラム主義勢力タリバンが実権を把握して以降、政情不安と治安悪化による人道危機が続く。
- （3）経済の非常に遅い成長、拡大している高失業率、人口の約半分に影響を与える深刻な貧困、貧弱な統治などから、現在、最大級の経済的ショックに見舞われている。

（出典：外務省 HP、前田耕作、山内和也編著「アフガニスタンを知るための70章」（明石書店）等を基に JISTEC 作成）

3. 文化的・社会的特徴

- （1）海を持たない内陸国であり、国土の70%以上は山岳地帯である。気候は乾燥して農業に適さず、耕地として利用されているのは国土の20%にも満たない。牧畜はアフガニスタンの風土に適した生業であり、中でも、「遊牧」は、アフガニスタンの歴史や文化、そして政治にも大きな影響を及ぼしてきた営みである。
- （2）総人口は3,890万人（2020年）であり、パシュトゥン人がその約42%、タジク人が27%、ハザラ人が9~12%、ウズベク人が9%を構成し、その他のアイマク人、トルクメン人、バローチ人、スーリスターニ人、アラブ人、ブラーフイ人、グジャル人などが数%程度となっている。多民族をまとめ、いかに制定するかが、国家の維持に関わるという課題を抱えている。
- （3）国民の約7割が農村に住み、農業は労働人口の約40%、GDPの約20%を占めているが、灌漑施設の不備もあり主要農産物の小麦などは早魃などの気候変動の影響に大きく影響を受け易い。早魃でも育つ換金作物がケシであり、農民の多くは生きていくためにケシ生産に手を出さざるを得ない。

るを得ない。同国は世界最大のケシ生産国であり、全世界のケシ生産の9割を占める。

(出典：外務省 HP、前田耕作、山内和也編著「アフガニスタンを知るための70章」(明石書店)等を基に JISTEC 作成)

4. 社会情勢

- (1) 2015年以降、国際治安支援部隊 (ISAF) の後継である NATO の「確固たる支援任務」 (RSM) がアフガニスタン治安部隊への訓練・助言・支援を実施。2021年4月、米国及び NATO は9月11日までの駐留部隊撤収を決定。
- (2) アフガニスタンで2021年8月15日に、ガニ政権が崩壊し、イスラム主義勢力タリバンが実権を把握して以降、政情不安と治安悪化による人道危機が続く。
- (3) 非常に脆弱な経済情勢、蔓延している貧困、飢餓、栄養失調、そしてタリバン政権の発足に伴う政府の管理者と専門家の喪失が続いている。さらに、国の外貨準備の凍結とアフガニスタンの国際通貨基金 (IMF) 資金の割り当てへのアクセスの喪失は、為替レートを管理する主要なマクロ経済ツールを奪い、アフガニスタンの銀行システムの流動性を奪い、その崩壊の危機に瀕している。

(出典：外務省 HP、特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan) 資料、在アフガニスタン日本国大使館 HP 等を基に JISTEC 作成)

5. 教育・科学技術予算を含む国家財政状況 (過去5年)

(1) 5年間の国家財政状況 (単位：10億ドル)

項目	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
歳入	37.9	38.3	44.6	43.6	43.7
歳出	37.7	39.2	42.3	45.3	47.5

(出典：GFS (政府財政統計マニュアル) データを基に JISTEC 作成)

(2) 直近の教育・科学技術予算

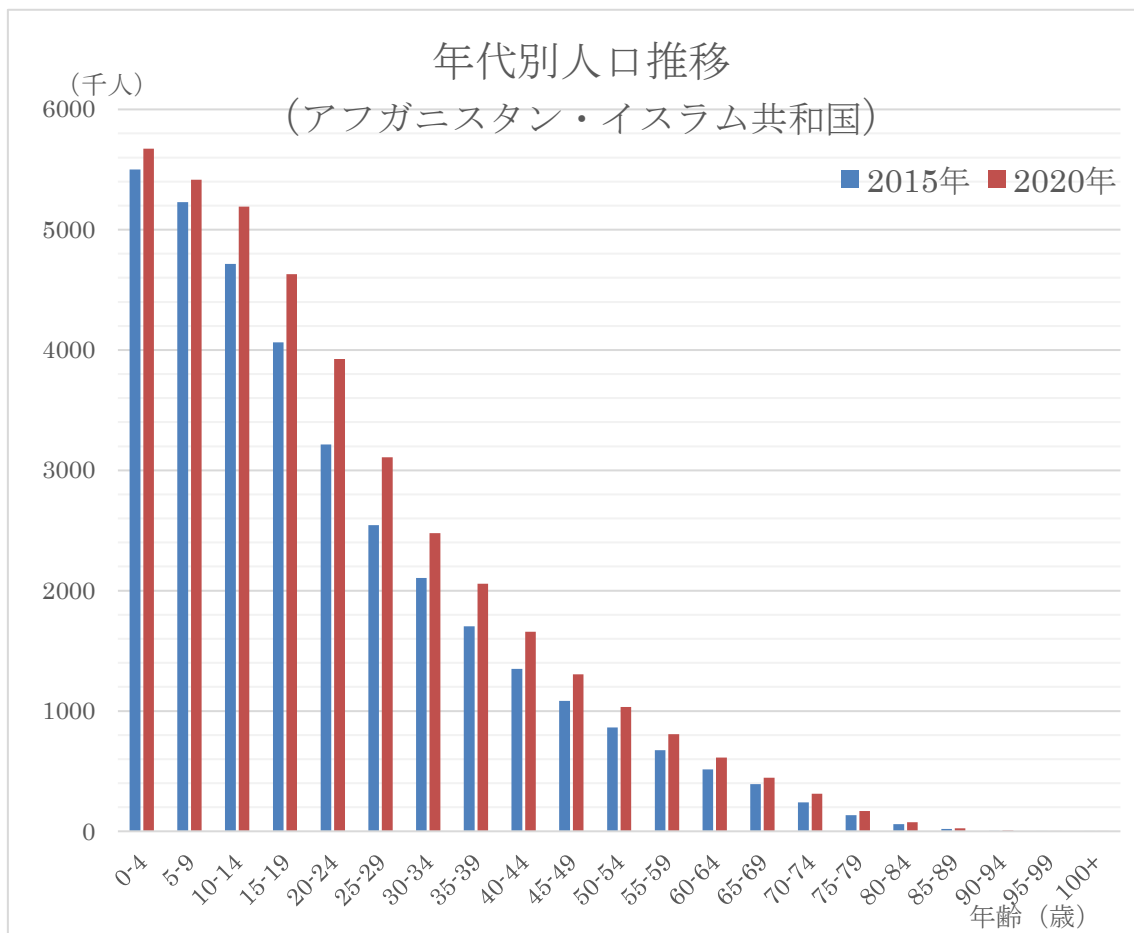
項目	金額
公的教育費 (2019年)	6.1億ドル
研究開発費	情報なし

(資料：GLOBAL NOTE 出典：UNESCO)

6. 年代別人口推移

・2015年及び2020年の過去2年分（単位：千人）

年齢（歳）	2015年	2020年
0-4	5,500.9	5,672.5
5-9	5,228.5	5,416.2
10-14	4,714.4	5,192.1
15-19	4,062.6	4,629.4
20-24	3,215.0	3,926.5
25-29	2,543.7	3,109.4
30-34	2,106.6	2,478.3
35-39	1,703.5	2,056.4
40-44	1,349.2	1,658.7
45-49	1,083.0	1,304.7
50-54	863.9	1,032.4
55-59	674.1	807.8
60-64	515.3	612.6
65-69	391.9	444.9
70-74	240.9	312.5
75-79	134.6	168.0
80-84	60.6	75.6
85-89	20.2	24.5
90-94	4.3	5.2
95-99	0.5	0.6
100+	0.0	0.0
合計	34,413.6	38,928.3



(出典：国連経済社会局 (DESA) 人口部 (Population Division))

II 初等・中等・高等教育に関わる制度・状況

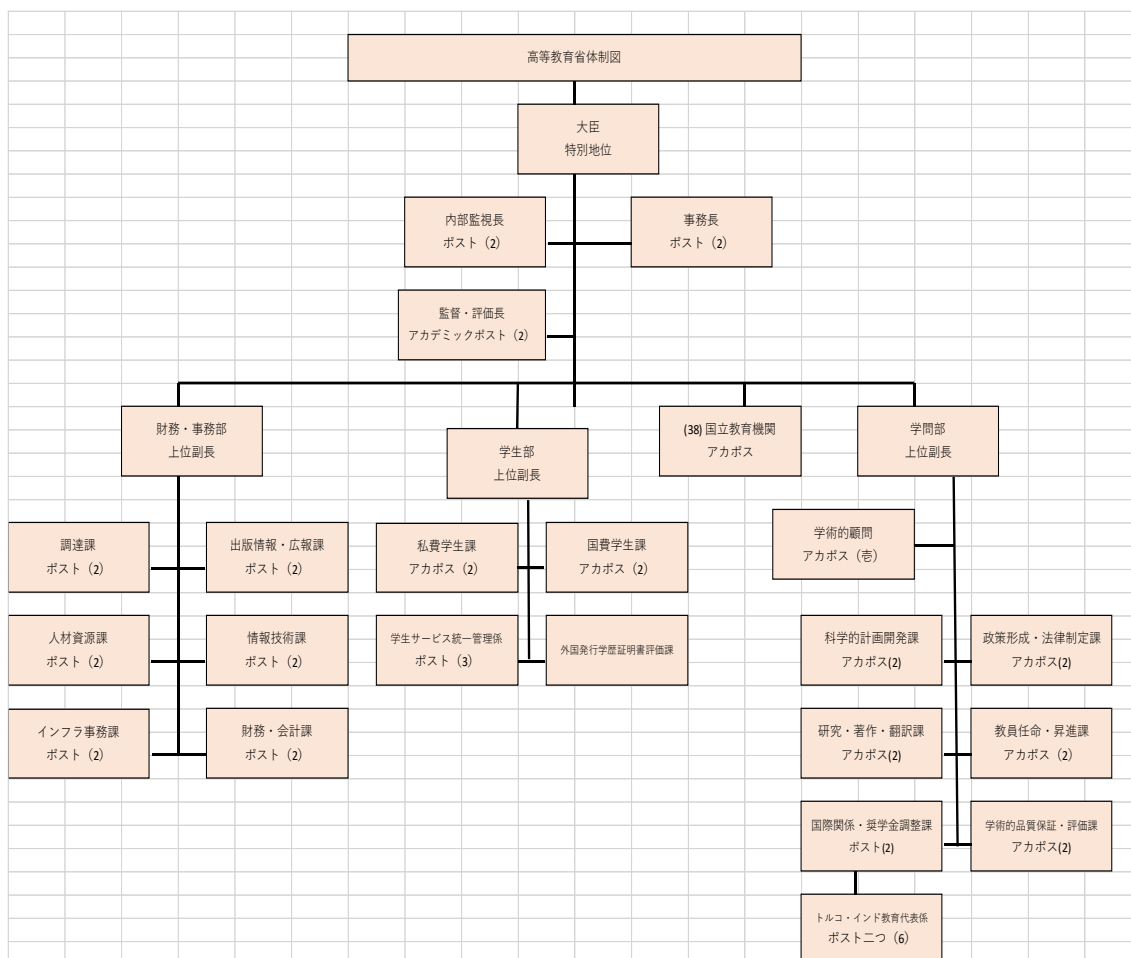
a. 学校教育制度全般

(1) 関係する行政機関の名称・所掌・権限

「教育省」

- (i) 初等中等教育のほか初等教員養成，職業技術教育，識字教育等を所管している。教育省は全 34 州と州の下の地方行政区画に出先機関を設け，所管する分野について直接的な取組みを進めている。

(ii) 行政体制図は次の通り。



(iii) 基本情報

- ・住所：Kabul, Kabul, Afghanistan
- ・電話番号：798 80 10 66

(出典：アフガニスタン国教育省 HP)

(2) 教育関係の政府方針及び基本計画の有無、概要

(i) 「国の教育戦略プラン (National Education Strategic Plan) (2017 - 2021)」

優先事項は、より多くの学校の建設を完了、プログラムの質と関連性の向上、生産的な仕事のためにより良い卒業生を送り出すことである。州間及び都市部と農村部の間で、大きなギャップが残っている。今後5年間で、教育省は、現在の低い初等教育への就学者を増やし。特に女子の21%と男子の43%しか学校に通っていない農村部の貧しく恵まれない子供たちの就学率を向上させることを目的としている。

- (ii) 国家公用語であるパシュート語とダリー語の2言語による教科書が使用されている。

(出典：前田耕作、山内和也編著「アフガニスタンを知るための70章」(明石書店)を基に JISTEC 作成)

- (3) 年間スケジュール
情報なし

- (4) 初等教育から始まる学校制度”

- (i) 学校制度全般

・義務教育

義務教育は、7～16歳の前期中等教育終了までの9年間である。

・初等教育

初等教育は7歳入学で6年間、初等学校又はイスラム教教育機関で行われる。

・中等教育

中等教育は前期と後期に分かれる。

前期中等教育は、前期中等学校又はイスラム教教育機関において3年間行われる。

後期中等教育は、後期中等学校又はイスラム教教育機関において3年間行われる。第12学年修了者に対して修了証が授与される。

このほか、後期中等教育段階の教育機関として、中等専門学校(2～5年の課程)、教員養成教育機関(2又は5年の課程)、イスラム教教育機関がある。5年制の課程修了者には準学士が授与される。

・高等教育

高等教育機関には総合大学と高等専門教育機関がある。前者には学士課程(4年～)、修士課程(2年)及び博士課程が置かれている。後者は、法学や経営学、コンピュータ科学など学士課程レベルの専門教育を行う。高等教育機関入学の基礎要件は後期中等の修了であるが、国立機関については全国大学入学試験の成績に基づく選抜が行われる。私立機関については同試験の受験義務はない。

(出典：文部科学省 HP、登利谷正人「アフガニスタンの教育システムと教科書からみる学校教育」及び前田耕作、山内和也編著「アフガニスタンを知るための70章」(明石書店)を基に JISTEC 作成)

(5) 就学率各教育段階における生徒数・学生数

(i) 生徒数・学生数

項目	生徒数・学生数 (人)
小学校学生数(2017年)	6,544,906
中学校学生数(2017年)	1,982,869
高校学生数(2017年)	1,081,020

(出典：The World Bank)

(ii) 就学率

項目	就学率 (%)
小学校*	103.94
中学校*	54.04

(*いずれも就学年齢以外の者を含む)

(出典：国際統計格付センターHP)

b. 中等教育 (高校段階)

(1) 学校数：情報なし

(2) 高校リスト

ここには高校名を記載した。各校の所在地、学生数、ホームページ及び概要・特徴については、別添1とした。

	高校名
1	Abdul Qadir Shahid High School
2	Afghan-Turk High School
3	Afghan-Turk High School
4	Ahli Mughulha High School
5	Bibi Amina Girls High School
6	Central Asia English School / Computer Center
7	Dowab Primary School
8	Familia (Reshkhur) High School (SESP)
9	Habibe Kadiri High School
10	Kabul Al-fath School

(出典：関連HPを基に JISTEC 作成)

c. 高等教育

(1) 大学・大学院進学率

情報なし

(2) 国・公・私立の各大学数

(2012年 国・公立)

項目	数
公立高等施設	31
大学	19
高等教育施設	12

(出典：World Education News and Reviews)

(3) 大学学生数、大学院学生数

項目	学生数(人)
大学生数 (2018年)	365,982
大学院修士課程学生数 (2018年)	4,600
大学院博士課程学生数 (2018年)	28

(出典：The World Bank)

(4) 大学名及び大学ランキング

ここでは、上位10校について大学名だけを記載した。各校の所在地、学生数、ホームページ及び概要・特徴については、別添2とした。

順位	大学名
1	Kabul University
2	Herat University
3	Afghanistan University of Education
4	Kabul Education University (of Rabbani)
5	The American University of Afghanistan
6	Kardan University
7	Kateb University
8	Kabul Polytechnic University
9	Dunya University of Afghanistan
10	Salam University

(出典：UniRank)

(5) 海外の大学・大学院への留学生数及び主要な留学先
 海外への留学生総数：31,522 人

留学先	留学生数 (人)
イラン	13,130
トルコ	6,804
インド	4,504
サウジアラビア	958
マレーシア	549
ドイツ	475
アメリカ	420
カザフスタン	415
タジキスタン	256
ロシア	254

(出典：UNESCO HP)

(6) 日本の大学、大学院への留学生数及び主要な留学先 (2020 年)

留学先大学名	留学生数 (人)
琉球大学	19
広島大学	13
立命館アジア太平洋大学	8
熊本大学	8
筑波大学	7
宮崎大学	6
名古屋大学	5
東海大学	5
豊橋技術科学大学	5
九州大学	4
岡山大学	4
名古屋工業大学	4
京都大学	3
立命館大学	3
横浜国立大学	3
埼玉大学	3
国際大学	3
東京農業大学	3

同志社大学	2
山口大学	2
東京農工大学	2
大阪市立大学	2
島根大学	2
秋田大学	2
日本体育大学	2
早稲田大学	1
大阪大学	1
北海道大学	1
東京外国語大学	1
東京医科歯科大学	1
岐阜大学	1
九州工業大学	1
奈良先端科学技術大学院大学	1
お茶の水女子大学	1
神戸情報大学院大学	1
高知工科大学	1
静岡文化芸術大学	1
合計	132

(出典：独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)「留学生調査」による)

(7) 日本の教育・研究機関と協力協定等を有している大学及び日本への留学実績を有する大学の名称及び専攻分野(別添3)

Ⅲ 科学技術・研究開発に関わる制度・状況

1. 関係する行政機関の名称・所掌・権限等

(1) 名称

アフガニスタンには「科学技術・研究開発の名のつく省はなく、関係する行政機関としては、「通信・情報技術省」がある。(同省のHPは2022年1月31日に更新されている。)

(i) 同省の役割はアフガニスタンの人々に高品質のコミュニケーション、IT、郵便サービスを手頃な価格で提供することである。同省は、アフガ

ニスタンの人々を知識と資源に結び付け、生活の質を向上させることによって、社会の積極的な変化を積極的に提唱してきた。アフガニスタン政府は、安定した民主的な政治環境、法の支配、ビジネスのための有利な規制環境の確立を目指している。

(ii) 同省の組織

- ・中央総局
- ・総長
- ・監視と評価
- ・内部監査
- ・法務委員会
- ・メディアユニット
- ・財務・行政総務部
- ・地方事務所

(iii) 基本情報

- ・住所：Mohammad Jan Khan Road, Kabul, Afghanistan
- ・電話番号：+93(0) 20 210 4224
- ・HP：<https://www.mcit.gov.af/en>
- ・電子メール：info@mcit.gov.af

(iv) 日本との政府間交流

「技術協力に関する日本国政府とアフガニスタン・イスラム共和国政府との間の協定」（2005年7月）に基づき、技術協力、専門家派遣などが行われてきた。

(出典：アフガニスタン国通信・情報技術省 HP 及び
外務省 HP を基に JISTEC 作成)

2. 科学技術推進状況

(1) 政府の方針・政策

通信情報技術省は、国家プロジェクト、民間事業の実施、デジタル変革への道に取り組むため、次のような目標を立てている。

- 1) あらゆる分野で情報技術を推進すること
- 2) 手頃な価格で安全なアクセスを提供すること
- 3) 通信情報技術分野における国内および国際的な投資を誘致すること
- 4) アフガニスタンにおけるデジタルサービスの提供と合法化を進めること
- 5) 公共サービスのプロセスを自動化し、簡素化すること

6) デジタルトランスフォーメーションのためのエコシステム(包括的なコンテンツ)を作成すること

7) デジタル経済の創造と促進を進めること

(出典：アフガニスタン国通信・情報技術省 HP)

(2) 予算規模
情報なし

(3) ファンディング機関

通信情報技術省が国の関係予算を所管している。

(出典：アフガニスタン国通信・情報技術省 HP)

3. 研究機関一覧

	研究機関名
1	カブール工科大学
2	カブール医科大学(KMU)
3	ナンガルハル大学
4	ノルウェーのアフガニスタン委員会(NAC)

(出典：Nature Index)

4. トップ研究者情報 (別添4 トップ研究者・共同研究・論文関連データ)

5. 研究開発活動の特徴

アフガニスタンは、デジタルCASAアフガニスタンプロジェクトをすすめている。このプロジェクトは、アフガニスタンの通信情報技術省(MCIT)によって実施される世界銀行の資金提供プロジェクトである。このプロジェクトでは、より手頃な価格のインターネットへのアクセスを増やすことなどを目的としている。

(出典：アフガニスタン国通信情報技術省 HP)

6. 共同研究相手国 (別添4 トップ研究者・共同研究・論文関連データ)

7. IT普及状況 (2015年)

(1) インターネットユーザー数(千人)	2,843
(2) インターネット普及率 (%)	8.26

(資料：GLOBAL NOTE 出典：ITU)

IV 参考情報

1. 位置国土面積

652, 225 平方キロメートル（日本の約 1.7 倍）



（出典：外務省 HP）

2. 人口

3, 890 万人（2020 年 世界人口白書）

（出典：外務省 HP）

3. 主要民族

パシュトゥーン人、タジク人、ハザラ人、ウズベク人等

（出典：外務省 HP）

4. オフィシャル言語、主要言語

ペルシア語の一種であるダリー語とパシュトゥーン人が話すパシュトゥー語が公用語。前者は一般的に用いられる言語であり、後者は特に国土の東部及び南部を中心に用いられる。その他、各民族により特有の言語が用いられる。

（出典：国際交流基金 HP）

5. 宗教

イスラム教（主にスンニ派であるが、ハザラ人はシーア派）

（出典：外務省 HP）

6. GDP 等

項目	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
GDP (100 万ドル)	20, 057	18, 020	18, 883	18, 401	18, 876
一人当たり GNI (ドル)	548. 7	514. 3	527. 5	500. 7	504. 8
GDP 成長率 (%)	2. 16	2. 65	1. 19	3. 91	-2. 35

（資料：GLOBAL NOTE 出典：IMF）

7. 主要産業

サービス産業、農業、建設業、鉱業・採石業等（2018年 アフガニスタン統計年鑑）（出典：2019年 世銀）

（出典：外務省 HP）

8. 主要貿易相手国

（1）輸出

パキスタン、インド、中国、トルコ、イラン、UAE、イラク等（2018年 アフガニスタン統計年鑑）

（2）輸入

イラン、中国、パキスタン、カザフスタン、ウズベキスタン、日本、トルクメニスタン、インド、マレーシア、ロシア、UAE、タジキスタン等（同上）

（出典：外務省 HP）

9. 主要援助国及び援助金額

主要援助国：米国、ドイツ、英国、日本、スウェーデン、オーストラリア、カナダ						
ODA 実績（過去5年）（支出総額ベース、単位：百万ドル）						
年	1位	2位	3位	4位	5位	合計
2013年	米国 1,701.04	日本 718.53	ドイツ 549.38	英国 333.88	スウェーデン 127.76	4,273.61
2014年	米国 1,942.37	ドイツ 529.39	日本 386.67	英国 332.83	オーストラリア 148.78	4,056.96
2015年	米国 1,639.58	英国 458.29	ドイツ 362.07	日本 317.20	カナダ 148.08	3,595.09
2016年	米国 1,386.20	ドイツ 502.84	英国 352.55	日本 300.83	スウェーデン 114.86	3,207.82
2017年	米国 1,218.64	ドイツ 478.43	英国 292.29	日本 233.69	スウェーデン 118.74	2,839.27

（出典：外務省 HP）

10. 科学技術・研究開発力(OECD 統計)

[インプット指標]

（1）研究開発費：情報なし

（2）研究開発費対 GDP 比：情報なし

(3) 研究者数	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
研究者総数(人)	5,548	6,859	8,001	8,342	9,949
人口100万人当たり 研究者(人)	178.0	212.5	239.8	242.4	281.2

(資料：GLOBAL NOTE 出典：UNESCO、The World Bank の
情報を基に JISTEC 作成)

1 1. 研究開発アウトプット指標

(1) 論文関連データ (別添4 トップ研究者・共同研究・論文関連データ)

- ・論文数(総数) (直近5年間)
- ・論文数シェア(直近5年間)
- ・論文数(被引用数トップ1%論文) (直近5年間)
- ・論文数のシェア(被引用数トップ1%論文) (直近5年間)

(2) Nature Index 関連データ

(i) Nature Index の論文カウント数及びシェア

カウント	シェア(%)
4	0.34

(ii) Nature IndexTop10 研究機関

	研究機関名	カウント	シェア(%)
1	カブール工科大学	1	0.13
2	カブール医科大学(KMU)	1	0.09
3	ナンガルハル大学	1	0.05
4	ノルウェーのアフガニスタン委員会(NAC)	1	0.05
5	アフガニスタン公衆衛生省	1	0.01

(出典：Nature Index)

(3) Global Innovating Index 対象国なし

別添 1 : 高校の学校ランキングリスト

別添 2 : 大学の学校ランキングリスト

別添 3 : 日本の教育・研究機関と協力協定等を有している大学及び日本への留学実績を有する大学の名称及び専攻分野

別添 4 : トップ研究者・共同研究・論文関連データ

別添1：高校の学校ランキングリスト アフガニスタン 高校 22校

	学校名	所在地	学生数	ホームページ	特徴
1	Abdul Qadir Shahid High School	Kabul Province			
2	Afghan-Turk High School	Herat Province			私立
3	Afghan-Turk High School	Kabul Province			私立
4	Ahli Mughulha High School	Badakhshan Province			中央アジア機構が支援した。
5	Bibi Amina Girls High School	Panjshir Province			
6	Central Asia English School / Computer Center	Kabul Province			中央アジア機構が支援した。
7	Dowab Primary School	Panjshir Province			中央アジア機構が支援した。
8	Familia (Reshkhur) High School (SESP)	Kabul Province			中央アジア機構が支援した。
9	Habibe Kadiri High School	Jowzjan Province, Aqcha			女子校。トルコ共和国-国家教育省
10	Kabul Al-fath School	Kabul Province			
11	Kamiri Girls High School	Kabul Province			中央アジア機構が支援した。
12	Kaseer-ul-Estifada High School	Kabul Province			
13	Khushal Khan High School	Kabul Province			
14	Kuchi Primary Tent School (Nomad Mobile School)	Kabul Province			中央アジア機構が支援した。
15	Lalander Primary School (Shahid Motahidi)	Kabul Province			中央アジア機構が支援した。
16	Marefat High School	Kabul Province			共学。カブールで最良の学校の一つ。カブールの私立及び公立の学校の中で第1位。
17	Mir Afghan Girls School	Kabul Province			中央アジア機構が支援した。
18	Mohammad Alam Faiz Zad High School	Kabul Province			男子及び女子。Kolola PushtaとShahraraの間の、Shar-E Nawの素晴らしいエリアにあり、Ali Abad Hospital (旧Malalay Zehantoon) の後ろにある。この高校の以前の名前はLycéesTajrobaweEtibarKhanであった。BurhanuddinRabaniの大管長会で名前が変更された。その後、オーストリア大使館に隣接するコロラ・ブシュタの反対側に位置していたマノチェーレの小中学校は、モハマド・アラム・ファイザッド高校に統合された。同校は有名な公立学校であり、卒業生はさまざまな地元および外国の大学で勉強しており、卒業生は、企業および公的セクターの、さまざまな中レベル及び高レベルで働いている。
19	Pushgar Girls Primary School	Panjshir Province			中央アジア機構が支援した。
20	Rahman Mena Girls High School	Kabul Province			中央アジア機構が支援した。
21	Shah Ahmad Masood School	Takhar Province			以前に、中央アジア機構が支援した。
22	Shahid Khakrizwal Girls High School	Kandahar Province			

(出典：関連HPを基にJISTEC作成)

大学間交流協定（令和元年度実績）

別添3：日本の教育・研究機関と協力協定等を有している大学及び日本への留学実績を有する大学の名称及び専攻分野

日本側機関		協定又は覚書	協定等名		相手方大学の大学名		
設置形態	大学名		日本語表記	英語表記	日本語表記	国名	地域名
国立	東京農工大学	a: 包括的な協定【付属あり】	カブール大学と東京農工大学との学術の交流及び協力のための協定書	AGREEMENT FOR SCHOLARLY EXCHANGE AND COLLABORATION BETWEEN THE KABUL UNIVERSITY AND THE TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND TECHNOLOGY	カブール大学	アフガニスタン	中近東
国立	東京農工大学	c: 個別的な協定	覚書	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING	カブール大学	アフガニスタン	中近東
国立	名古屋工業大学	b: 包括的な協定【単体】	なし	AGREEMENT FOR ACADEMIC EXCHANGE AND COOPERATION BETWEEN NAGOYA INSTITUTE OF TECHNOLOGY AND KABUL UNIVERSITY	カブール大学	アフガニスタン	中近東
国立	大阪教育大学	b: 包括的な協定【単体】	学術及び教育協力に関する協定	Agreement for Academic and Educational Cooperation	ラバニ教育大学(旧カブール教育大)	アフガニスタン	中近東
国立	奈良女子大学	a: 包括的な協定【付属あり】	学術交流協定	Exchange Agreement between Kabul University and Nara Women's University	カブール大学	アフガニスタン	中近東
国立	奈良女子大学	c: 個別的な協定	学生交流に関する合意書	Agreement on the Exchange of Students between Kabul University and Nara Women's University	カブール大学	アフガニスタン	中近東
国立	奈良女子大学	a: 包括的な協定【付属あり】	学術交流協定	Exchange Agreement between Afghanistan University of Education and Nara Women's University	アフガニスタン教育大学	アフガニスタン	中近東
国立	奈良女子大学	c: 個別的な協定	学生交流に関する合意書	Agreement on the Exchange of Students between Afghanistan University of Education and Nara Women's University	アフガニスタン教育大学	アフガニスタン	中近東
国立	宮崎大学	a: 包括的な協定【付属あり】	大学間学術交流協定	Agreement on Academic Exchange	ヘラート大学	アフガニスタン	中近東
国立	宮崎大学	c: 個別的な協定	大学間学生交流覚書	Memorandum on Student Exchange	ヘラート大学	アフガニスタン	中近東
国立	琉球大学	b: 包括的な協定【単体】	カブール大学工学部と琉球大学工学部との国際交流に関する協定書	International Exchange Agreement between Faculty of Engineering, Kabul University and Faculty of Engineering, University of the Ryukyus	カブール大学	アフガニスタン	中近東
私立	日本女子大学	b: 包括的な協定【単体】	日本女子大学・カブール大学大学間協定	AGREEMENT BETWEEN KABUL UNIVERSITY AND JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY	カブール大学	アフガニスタン	中近東
私立	早稲田大学	b: 包括的な協定【単体】	大学間協定書(MOU)	University-Wide Agreement(MOU)	カブール大学	アフガニスタン	中近東
私立	同志社大学	b: 包括的な協定【単体】	大学間協定	University-level Agreements	カブール大学	アフガニスタン	中近東

別添4：トップ研究者・共同研究・論文関連データ

【アフガニスタン】

4. トップ研究者情報

h-indexが高い著者 (2001～2020年)

(出典)エルゼビアScopus

00_全分野			
順位	h5-index	名前	所属機関
1	55	Alexander Stephen P. H.	School of Life Sciences; University of Nottingham Medical School
2	28	Anwari Palwasha	JS Consultancy Services
3	13	Mashal Mohammad Taufiq	French Medical Institute for Mothers and Children
4	12	Yadav Shyam Singh	Afghanistan Agriculture Input Project (AAIP); Agriculture Research Institute of Afghanistan
5	10	Safi Najibullah	WHO Country Office
5	10	Bachant Peter	WindESCo Inc.

11_農学及び生物科学			
順位	h5-index	名前	所属機関
1	12	Yadav Shyam Singh	Afghanistan Agriculture Input Project (AAIP); Agriculture Research Institute of Afghanistan

13_生化学,遺伝学,分子生物学			
順位	h5-index	名前	所属機関
1	18	Alexander Stephen P. H.	School of Life Sciences; University of Nottingham Medical School

27_医学			
順位	h5-index	名前	所属機関
1	28	Anwari Palwasha	JS Consultancy Services
2	13	Mashal Mohammad Taufiq	French Medical Institute for Mothers and Children
3	10	Safi Najibullah	WHO Country Office
3	10	Alexander Stephen P. H.	School of Life Sciences; University of Nottingham Medical School

30_薬理学,毒性学,薬学			
順位	h5-index	名前	所属機関
1	46	Alexander Stephen P. H.	School of Life Sciences; University of Nottingham Medical School

別添4：トップ研究者・共同研究・論文関連データ

【アフガニスタン】

6. 共同研究相手国

共著論文の多い国 (2016～2020年)

(出典)エルゼビアScopus

00_全分野		
順位	国	共著数
1	アメリカ	212
2	日本	137
3	パキスタン	118
4	インド	112
5	イギリス	102
6	イラン	89
7	マレーシア	76
8	ドイツ	50
8	中国	50
10	トルコ	46
11	オーストラリア	44
11	フランス	44
13	スイス	42
14	バングラデシュ	39
15	カナダ	37
15	エジプト	37
17	ニジェール	35
18	インドネシア	34
19	オランダ	32
20	南アフリカ	28

10_科学全般		
順位	国	共著数
1	アメリカ	8
2	マレーシア	6
3	パキスタン	5

3	南アフリカ	5
3	日本	5
6	スイス	4
6	中国	4
6	イギリス	4
9	インド	3
9	イラン	3
9	トルコ	3
12	カナダ	2
13	レバノン	1
13	ブラジル	1
13	チェコ	1
13	ニカラグア	1
13	ニジェール	1
13	アイルランド	1
13	パナマ	1
13	カザフスタン	1

11_農学及び生物科学		
順位	国	共著数
1	インド	41
2	日本	32
3	アメリカ	23
4	パキスタン	15
5	イラン	10
6	イタリア	9
7	イギリス	8
8	中国	7
9	エジプト	5
9	ヨルダン	5
11	オランダ	4
11	メキシコ	4
11	カナダ	4
11	ドイツ	4
15	ベトナム	3
15	タイ	3
15	マレーシア	3
15	スイス	3

15	バングラデシュ	3
20	南アフリカ	2

12_人文学		
順位	国	共著数
1	マレーシア	3
2	オーストラリア	2
2	アメリカ	2
4	コロンビア	1
4	オーストリア	1
4	ヨルダン	1
4	イギリス	1
4	タンザニア	1
4	インドネシア	1
4	トルコ	1
4	タイ	1
4	日本	1
4	パキスタン	1
4	バングラデシュ	1
4	ロシア	1

13_生化学,遺伝学,分子生物学		
順位	国	共著数
1	アメリカ	31
2	パキスタン	23
3	イラン	14
4	インド	12
5	日本	10
6	スイス	9
7	中国	8
8	フランス	7
8	イギリス	7

10	メキシコ	5
10	トルコ	5
12	カナダ	4
12	オーストラリア	4
12	バングラデシュ	4
12	エジプト	4
12	ニュージーランド	4
12	ドイツ	4
18	ネパール	3
18	カザフスタン	3
18	オランダ	3

14_ビジネス,経営学,会計学		
順位	国	共著数
1	マレーシア	5
2	アラブ首長国連邦	4
3	日本	3
3	インド	3
3	スリランカ	3
6	トルコ	2
6	アメリカ	2
8	チュニジア	1
8	オーストラリア	1
8	台湾	1
8	イラン	1
8	タイ	1
8	エストニア	1

15_化学工学		
順位	国	共著数

1	トルコ	3
1	日本	3
3	メキシコ	2
3	アメリカ	2
3	マレーシア	2
3	イラン	2
7	韓国	1
7	フランス	1
7	スロバキア	1
7	インド	1
7	オランダ	1
7	イギリス	1

16_化学		
順位	国	共著数
1	マレーシア	4
2	インド	2
2	日本	2
2	イラン	2
2	ドイツ	2
2	フランス	2
7	アメリカ	1
7	韓国	1
7	メキシコ	1
7	ニジェール	1
7	エジプト	1
7	タジキスタン	1

17_コンピュータ科学		
順位	国	共著数
1	日本	16
2	アメリカ	12
3	マレーシア	11
4	インドネシア	7
4	エストニア	7
6	インド	5
6	中国	5
8	パキスタン	4
9	フランス	3
9	イラン	3
11	カメルーン	2
11	エジプト	2
11	モロッコ	2
11	サウジアラビア	2
11	バングラデシュ	2
11	ニュージーランド	2
11	ポーランド	2
18	ギニアビサウ共和国	1
18	ベトナム	1
18	スリランカ	1

18_意思決定科学		
順位	国	共著数
1	アメリカ	14
2	中国	5
2	日本	5
4	ドイツ	4
5	イギリス	3
5	インド	3

7	中国	2
7	パキスタン	2
7	チェコ	2
7	カタール	2
7	カナダ	2
7	デンマーク	2
7	フランス	2
14	オランダ	1
14	タイ	1
14	オーストリア	1
14	アイルランド	1
14	コスタリカ	1
14	トルコ	1
14	韓国	1

19_地球科学,惑星学		
順位	国	共著数
1	アメリカ	13
2	ドイツ	10
3	日本	9
4	フランス	6
5	インド	5
6	イギリス	4
6	ノルウェイ	4
6	ベルギー	4
6	マレーシア	4
10	タジキスタン	3
11	アイスランド	2
11	スウェーデン	2
11	イタリア	2
11	イラン	2
11	ポーランド	2
11	エジプト	2
11	フィンランド	2
11	オランダ	2
19	カナダ	1
19	韓国	1

20_経済学,計量経済学,金融		
順位	国	共著数
1	イギリス	6
2	アメリカ	5
3	スリランカ	4
3	インド	4
5	アラブ首長国連邦	3
5	ネパール	3
5	ドイツ	3
5	パキスタン	3
9	イラン	2
9	バングラデシュ	2
9	マレーシア	2
9	オランダ	2
13	キューバ	1
13	スイス	1
13	イタリア	1
13	日本	1
13	スペイン	1
13	カナダ	1
13	シエラレオネ	1
13	カンボジア	1

21_エネルギー科学		
順位	国	共著数
1	日本	19
2	アメリカ	8
3	インド	4
4	マレーシア	3
4	エジプト	3
4	ドイツ	3
7	パキスタン	2
7	トルコ	2
7	スウェーデン	2
10	アイルランド	1
10	レバノン	1
10	ヨルダン	1

10	ペルー	1
10	デンマーク	1
10	モロッコ	1
10	ベトナム	1
10	インドネシア	1
10	ニュージーランド	1
10	オーストラリア	1
10	イギリス	1

22_工学		
順位	国	共著数
1	日本	25
2	アメリカ	20
3	トルコ	11
3	マレーシア	11
5	インド	9
6	インドネシア	7
7	イラン	5
8	フランス	4
8	エジプト	4
8	ドイツ	4
11	パキスタン	3
11	中国	3
11	イギリス	3
11	ベトナム	3
11	モロッコ	3
16	エストニア	2
16	ニュージーランド	2
16	バングラデシュ	2
16	台湾	2
16	アイスランド	2

23_環境科学		
順位	国	共著数
1	日本	23
2	アメリカ	20
3	マレーシア	16

4	インド	14
5	ドイツ	8
5	エジプト	8
7	イラン	7
7	トルコ	7
9	パキスタン	5
10	バングラデシュ	4
10	イギリス	4
12	ヨルダン	3
12	イタリア	3
12	カナダ	3
12	ニュージーランド	3
12	スリランカ	3
12	ネパール	3
18	ベトナム	2
18	ブータン	2
18	フランス	2

24_免疫学,微生物学		
順位	国	共著数
1	イギリス	15
2	アメリカ	14
3	イラン	9
4	スイス	8
5	タイ	6
6	パキスタン	3
6	中国	3
8	日本	2
8	ガーナ	2
8	ニジェール	2
8	フィリピン	2
8	フランス	2
8	オーストラリア	2
8	デンマーク	2
15	エジプト	1
15	モザンビーク	1
15	ウガンダ	1
15	オランダ	1

15	カナダ	1
15	バングラデシュ	1

25_材料科学		
順位	国	共著数
1	日本	5
2	トルコ	3
2	マレーシア	3
4	カナダ	1
4	フランス	1
4	カメルーン	1
4	ギニアビサウ共和国	1
4	アメリカ	1
4	ニジェール	1
4	イラク	1
4	アルゼンチン	1
4	バングラデシュ	1
4	インド	1
4	台湾	1
4	ベトナム	1
4	ベルギー	1

26_数学		
順位	国	共著数
1	アメリカ	25
2	中国	11
3	日本	8
4	フランス	5
4	ドイツ	5
6	エストニア	4
7	イギリス	3
7	インド	3
9	カナダ	2

9	トルコ	2
9	チェコ	2
9	中国	2
9	ベトナム	2
9	ニュージーランド	2
9	デンマーク	2
16	グレナダ	1
16	パキスタン	1
16	ポーランド	1
16	イタリア	1
16	ブラジル	1

27_医学		
順位	国	共著数
1	アメリカ	102
2	パキスタン	68
2	イギリス	68
4	イラン	56
5	インド	43
6	スイス	36
7	日本	35
8	マレーシア	32
8	オーストラリア	32
10	ニジェール	30
11	バングラデシュ	29
12	カナダ	25
13	エチオピア	24
14	中国	23
14	トルコ	23
14	エジプト	23
17	ドイツ	22
17	南アフリカ	22
17	インドネシア	22
20	スペイン	21

28_神経科学		
順位	国	共著数

1	日本	2
1	マレーシア	2
3	インド	1
3	タイ	1
3	中国	1
3	エジプト	1
3	オーストラリア	1
3	韓国	1
3	スリランカ	1
3	パキスタン	1
3	モンゴル	1
3	シンガポール	1
3	イラン	1
3	台湾	1
3	インドネシア	1
3	ベトナム	1
3	フィリピン	1
3	イスラエル	1

29_看護学		
順位	国	共著数
1	イラン	5
1	アメリカ	5
3	オーストラリア	2
3	エジプト	2
3	パキスタン	2
6	イギリス	1
6	パレスチナ	1
6	中国	1
6	サウジアラビア	1
6	ブラジル	1
6	シリア	1
6	フランス	1
6	ヨルダン	1
6	トルコ	1
6	マレーシア	1

6	インド	1
6	スーダン	1
6	キプロス	1
6	フィリピン	1
6	カメルーン	1

30_薬理学,毒性学,薬学		
順位	国	共著数
1	インド	8
2	フランス	7
3	日本	2
3	レバノン	2
3	パキスタン	2
3	イラン	2
7	アメリカ	1
7	中国	1
7	インドネシア	1
7	イギリス	1
7	サウジアラビア	1
7	マラウイ	1
7	エジプト	1
7	モロッコ	1
7	マレーシア	1
7	メキシコ	1

31_物理学,天文学		
順位	国	共著数
1	マレーシア	5
2	日本	4
3	アメリカ	3
4	アイスランド	2
4	イラン	2
4	トルコ	2

33_社会科学		
順位	国	共著数
1	アメリカ	19
2	日本	13
3	パキスタン	9
3	イギリス	9
5	インド	8
6	マレーシア	7
6	イラン	7
8	オーストラリア	6
9	バングラデシュ	5
9	カナダ	5
11	トルコ	4
12	ドイツ	3
12	オランダ	3
12	中国	3
15	イタリア	2
15	ニュージーランド	2
15	タイ	2
15	エストニア	2
15	フランス	2
15	インドネシア	2

34_獣医学		
順位	国	共著数
1	アメリカ	7
2	スイス	6
3	イギリス	5
3	日本	5
5	中国	3
5	パキスタン	3
5	イラン	3
8	ヨルダン	2
9	マラウイ	1
9	チリ	1
9	タイ	1
9	オーストラリア	1

9	アラブ首長国連邦	1
9	エジプト	1
9	インド	1
9	レバノン	1
9	ガーナ	1
9	バングラデシュ	1
9	オランダ	1

36_健康衛生学		
順位	国	共著数
1	イラン	3
2	パキスタン	1
2	ニュージーランド	1
2	ドイツ	1
2	マレーシア	1

別添4：トップ研究者・共同研究・論文関連データ
【アフガニスタン】

11. 研究開発アウトプット指標 (1) 論文関連データ (エルゼビア社データまとめ)

論文、トップ1%論文、トップ10%論文の数と世界シェア (2016~2020の5年間)
(出典)エルゼビアScopus

番号	分野名	論文数(総数)					論文数世界シェア(総数)					論文数(被引用数トップ1%論文)					論文数のシェア(被引用数トップ1%論文)					論文数(被引用数トップ10%論文)					論文数のシェア(被引用数トップ10%論文)				
		2016	2017	2018	2019	2020	2016	2017	2018	2019	2020	2016	2017	2018	2019	2020	2016	2017	2018	2019	2020	2016	2017	2018	2019	2020	2016	2017	2018	2019	2020
00	全分野	117	150	184	245	285	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	3	7	3	3	1	0.01%	0.03%	0.01%	0.01%	0.00%	9	15	16	18	28	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
10	科学全般	2	4	9	21	29	0.00%	0.01%	0.02%	0.04%	0.05%	0	0	0	1	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.13%	0.00%	0	0	0	1	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.02%	0.00%
11	農学及び生物科学	25	14	25	46	33	0.01%	0.01%	0.01%	0.02%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	1	2	2	4	0.01%	0.00%	0.01%	0.01%	0.02%
12	人文学	3	1	6	6	7	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	1	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.04%	0	0	1	0	2	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0.01%
13	生化学,遺伝学,分子生物学	13	9	28	17	19	0.00%	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	1	1	4	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%
14	ビジネス,経営学,会計学	3	1	4	10	12	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	2	0	1	0.00%	0.00%	0.02%	0.00%	0.01%
15	化学工学	1	5	3	3	5	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	2	0	0	1	0.00%	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%
16	化学	1	5	1	4	4	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	2	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%
17	コンピュータ科学	9	17	8	25	34	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	0	0	1	5	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%
18	意思決定科学	11	8	11	4	12	0.03%	0.02%	0.02%	0.01%	0.02%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	0	1	0	5	0.02%	0.00%	0.02%	0.00%	0.06%
19	地球科学,惑星学	5	9	16	12	19	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0	1	0	0	0	0.00%	0.11%	0.00%	0.00%	0.00%	1	1	1	1	3	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.02%
20	経済学,計量経済学,金融	1	3	3	14	8	0.00%	0.00%	0.00%	0.02%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	1	2	0	0.00%	0.00%	0.01%	0.03%	0.00%
21	エネルギー科学	1	9	8	12	8	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	1	2	2	0.00%	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%
22	工学	11	20	21	43	31	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0	1	0	0	0	0.00%	0.02%	0.00%	0.00%	0.00%	0	4	1	5	4	0.00%	0.01%	0.00%	0.01%	0.00%
23	環境科学	7	12	16	33	34	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	2	1	1	7	0.01%	0.01%	0.00%	0.00%	0.02%
24	免疫学,微生物学	7	10	6	7	8	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	1	0	0	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0.00%
25	材料科学	0	3	1	9	5	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	2	1	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
26	数学	18	17	14	10	16	0.01%	0.01%	0.01%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	0	0	2	5	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.01%
27	医学	39	60	64	61	99	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.14%	3	5	3	2	0	0.05%	0.09%	0.05%	0.03%	0.00%	6	9	10	2	7	0.01%	0.01%	0.02%	0.00%	0.10%
28	神経科学	0	1	1	1	1	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
29	看護学	1	0	2	5	7	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	2	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%
30	薬理学,毒性学,薬学	3	4	5	5	8	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	1	0	1	1	0.00%	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%
31	物理学,天文学	0	7	2	6	6	0.00%	0.01%	0.00%	0.01%	0.01%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	1	2	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	0.02%
32	心理学	0	3	1	1	4	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
33	社会科学	18	14	25	30	45	0.09%	0.06%	0.11%	0.13%	0.17%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1	1	2	1	1	0.05%	0.05%	0.09%	0.05%	0.04%
34	獣医学	1	3	7	8	5	0.00%	0.01%	0.02%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	1	2	0	0.00%	0.00%	0.02%	0.00%	0.00%
35	歯科学	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
36	健康衛生学	0	2	1	0	3	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0	0	0	0	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

別添4：トップ研究者・共同研究・論文関連データ

【アフガニスタン】

(参考1) 論文データでの特徴(2016-2020の5年間)

(出典)エルゼビアScopus

論文数世界シェアの上位分野		
順位	分野名	シェア
1	10_科学全般	0.02%
2	34_獣医学	0.02%
3	18_意思決定科学	0.02%
4	11_農学及び生物科学	0.01%
5	23_環境科学	0.01%
6	27_医学	0.01%
7	24_免疫学,微生物学	0.01%
8	20_経済学,計量経済学,金融	0.01%
9	33_社会科学	0.01%
10	19_地球科学,惑星学	0.01%
11	29_看護学	0.01%
12	14_ビジネス,経営学,会計学	0.01%
13	26_数学	0.01%
14	13_生化学,遺伝学,分子生物学	0.01%
15	30_薬理学,毒性学,薬学	0.01%
参考	00_全分野	0.01%

FWCIの上位分野		
順位	分野名	FWCI
1	27_医学	4.83
2	34_獣医学	1.29
3	15_化学工学	1.20
4	19_地球科学,惑星学	1.20
5	29_看護学	1.19
6	12_人文学	1.19
7	30_薬理学,毒性学,薬学	1.19
8	25_材料科学	1.11
9	21_エネルギー科学	1.07
10	16_化学	1.01
11	23_環境科学	0.98
12	18_意思決定科学	0.95
13	13_生化学,遺伝学,分子生物学	0.86
14	28_神経科学	0.85
15	22_工学	0.84
参考	00_全分野	2.12

Top1%論文シェアの上位分野		
順位	分野名	シェア
1	27_医学	0.00%
2	10_科学全般	0.00%
3	12_人文学	0.00%
4	19_地球科学,惑星学	0.00%
5	22_工学	0.00%
6	34_獣医学	0.00%
7	15_化学工学	0.00%
8	29_看護学	0.00%
9	30_薬理学,毒性学,薬学	0.00%
10	25_材料科学	0.00%
11	21_エネルギー科学	0.00%
12	16_化学	0.00%
13	23_環境科学	0.00%
14	18_意思決定科学	0.00%
15	13_生化学,遺伝学,分子生物学	0.00%
参考	00_全分野	0.00%

国際共著率の上位分野		
順位	分野名	共著率
1	34_獣医学	100.00%
2	15_化学工学	100.00%
3	16_化学	100.00%
4	28_神経科学	100.00%
5	24_免疫学,微生物学	100.00%
6	36_健康衛生学	100.00%
7	32_心理学	100.00%
8	11_農学及び生物科学	95.10%
9	13_生化学,遺伝学,分子生物学	94.19%
10	29_看護学	93.33%
11	23_環境科学	93.14%
12	21_エネルギー科学	92.11%
13	26_数学	90.67%
14	31_物理学,天文学	90.48%
15	25_材料科学	88.89%
参考	00_全分野	81.24%

別添4：トップ研究者・共同研究・論文関連データ

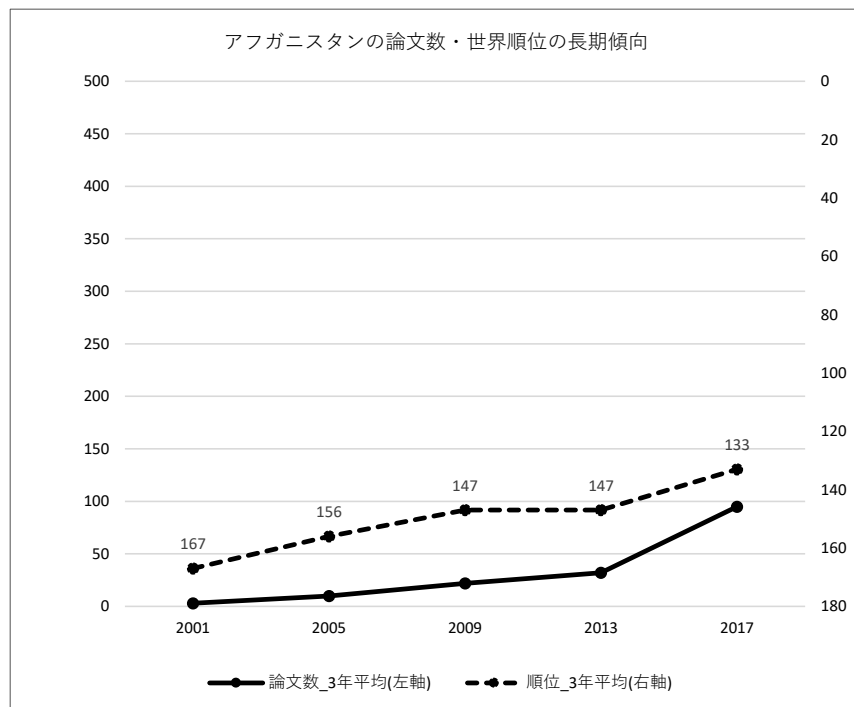
【アフガニスタン】

(参考4) 論文数と世界順位の長期傾向

例えば2017年は2016年から2018年の平均を示す

(出典)NSF、GLOBAL NOTE のデータからJISTEC作成

	2001	2005	2009	2013	2017
論文数_3年平均(左軸)	3	10	22	32	95
順位_3年平均(右軸)	167	156	147	147	133



【アフガニスタン】

(参考5) 論文データのまとめ

アフガニスタンの論文数は2001年以降の長期傾向データを見ると低い水準のまま推移しており、最近ようやく年間100は超えるレベルになっている。

アフガニスタンについては、論文数が極めて少ないため、詳細な考察に適さないと考えられる。